

国連NGO横浜国際人権センター・うずしおランチ T-over人権教育研究所・人権こども塾ニュース

生涯の絆を育む板野中学校の人権・部落問題学習⑥ ～差別意識と闘って発表していきたい～

級友の切実な訴えに、それまで本心を語ることのなかった地区外の生徒たちは、抱えてきた思いを語りはじめます。「今」「ここ」にある部落差別の現実を語り合う人権学習は、「ひとつと」であった部落問題学習を「わがごと」へと変えていきます。



抱え込んできた部落に対する想いを伝えるR・Hの語り

僕は親から部落のことを聞かされて、中学校に入る前は部落というのがすごく恐かったんだけど…。

中学校に入って、部落の友だちができたんだけど、みんないいやつばかりで、ほんまに部落差別を壊さないかなあと思いました。



自らを振り返り、信頼に応える生き方を決意するK・Mの語り

僕は、今までほとんど自分のことばかり考えていて、友だちが部落だと言っても、あまり真剣に考えていませんでした。

今日の授業でも、みんな泣きながら自分のことをどんどん言っているのに…、支えることのできない自分がすごく情けないです。

今回の発表をバネとして、みんなに応えられる人間になるように、これからの授業でも、どんどん発表して信頼し合える仲間をつくりたいと思います。



重苦しくない社会に思いを馳せるH・Mの語り

今まで発表してくれた子は、僕や他の子を信じて発表してくれたのに…。

今まで僕は、心が重苦しくなって発表できなかったもので、この授業を土台として、部落差別を壊して、重苦しくない社会をつつていく一人になりたいと思います。



自分の差別意識と闘っていく決意を伝えるM・Iの語り

今まで自分のことを打ち明けてくれた人に対して、ずっと私はうつむいてばかりいたんだけど…、今まで学習してきて、本当に自分自身の一番辛いことを言えるのは、まわりが信頼できるということで…。

S・Nさんがさっき言っていたけど、みんな信頼されていると言ってくれて、私も信頼されているのかなあと思って…。

だけど、どんどん発表できないというのは、自分の心の中にまだまだ差別意識があるからだと思います。これからも、この差別意識と闘って発表していきたいと思います。

部落問題に関心であった生徒、家族の差別意識に苦しんできた生徒、部落という自らの立場に揺れ続けてきた生徒、様々な立場の生徒たちがひたむきに本心をさらけ出していく語り合いは、生徒一人ひとりの中に深い絆を培っていきます。